

「胆石症について」



杵築市立山香病院
副院長(外科)

石尾 哲也

山香病院だより vol.73

で精密検査を受けることをお勧めします。

●治療について

無症状の胆嚢結石症は、基本的には経過観察(年1回程度の超音波検査でのフォローは必要)で問題ありませんが、有症状(腹痛)の胆嚢結石症は治療の対象となります。

治療には、①手術(胆嚢摘出術)、

②経口胆石溶解療法(薬を内服して胆石が溶けるのを期待する治療)、③体外衝撃波結石破砕術(体外から衝撃波を結石に集中させて結石を破砕する)などがあります。②・③は極一部の患者さんにしか適応がないため、ほとんどの患者さんは①の手術になります。

最近では、開腹することなく腹腔鏡下(小さな穴を数か所開けて手術を行う)での手術が多くなる患者さんで行われており、創が小さいため、術後の疼痛が軽減され、美容的にも優れ、早期の退院・社会復帰が可能になっています。

胆石でお悩みの方、原因不明の腹痛でお悩みの方は、お気軽に当院外科にご相談下さい。

部などが典型的です。この腹痛は、通常30分〜2時間持続したのち消失することが多いと言われています。

しかし、このような症状はあくまでも典型的な症状であり、『突然』というほどでもなかったり、『激しい』というほどでもなかったりして、胃が痛いと感じることも多いようです。

よって、胃が弱いと自己判断して胃薬ばかり飲んでいる方の中に胆嚢結石症の方がいるかもしれません。

胃が痛いと思って病院にいったら、胃カメラでは異常がなく超音波検査やCT検査で胆嚢結石症と診断されることもよくある話です。

胃が痛いと思っていても繰り返すようであれば、一度病院

胆石とは、肝臓で作られた胆汁中の成分(コレステロール、色素)が、胆汁の流れ道(胆嚢・総胆管・肝内胆管)で固まったものです。その存在部位により胆嚢結石(約80%)、総胆管結石(約20%)、肝内結石(約1%)に分類されます。今回は、この3種類の胆石のうち最も頻度の高い胆嚢結石症にしばって説明したいと思います。

●症状について

胆嚢結石症の症状は、主に胆石発作とか疝痛発作と言われる『突然起こる激しい腹痛』です。

腹痛の起こる部位は、①右季肋部(右のあばら骨の下)、②心窩部(みぞおち)、③背部、④右肩